

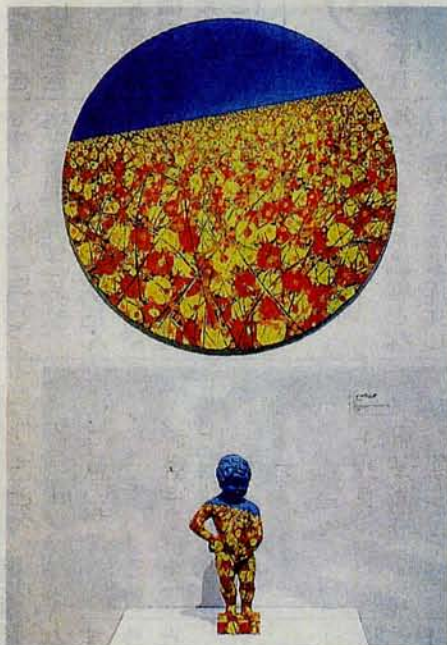
2005. 5. -2

アート散歩

清水 隆史

「パトリック・ジェロラ」展

御代田町・メルシャン軽井沢美術館



パトリック・ジェロラ「ジャポニダ」2点(上)フレスコ・カンヴァス(直径120㌢)・2001年、(下)フレスコ・ポリエステル製(高さ60㌢)・2005年

輝かしい原色がシンプルな画面からあふれ出して、痛いくらいに目を撃ち、頭に焼き付いて離れない。メルシャン軽井沢美術館(北佐久郡御代田町)で開催中の「パトリック・ジェロラ」展から受けた印象だ。パトリック・ジェロラは、ベルギー・ブリュッセル出身で、一九八〇年代から日本を拠点に活動している画家。今回は主に風景をモチーフにした作品を集めた展覧会になる。

生々しい色 不思議な力

描かれているのは、花畑と空、赤い夕陽と緑の草木、空と海原など、自然をモチーフにしたシンプルな抽象画だ。野性的な色彩感覚はどこかマチス的であり、またジャクソン・ポロックで有名な「ドリッピング」(絵筆から滴る絵の具を叩きつけて、偶然性で描く技法を多様するあたり、抽象画としてはオーソドック)

その秘密は、作家が使った技法にある。植物、粘土、岩石、金属などの天然素材を加工

し、天然の樹脂と混ぜて手作りした絵の具を、熱を加えて画面に定着するという(スベイン・アルタミラの古代壁画と同様の「フレスコ画」の一種)、非常に手間のかかる方法で、ほとんどの展示作品が描かれている。絵の具を準備する時間の方が、絵を描く時間よりも長くなるというほどの強いこだわりがあって、彼の独特の「色」が生み出されるのだらう。

さらにその色の中に本物の宝石を多数配置した作品(「祭り」)や、ベルギーが故郷である「小便小僧」に彩色した作品(会場を取り囲むように四十二体も設置されている)など、見所も多い。緑あふれる浅間山ろくくの景色とともに、ゆっくと楽しむことができた。

(フリーライター)

◇ 7月3日まで(5月3日を除く火曜日休館) 一般800円、大学生600円、中学生500円、小学生300円。

(おわり)